

大阪市立大学 中村太郎先生から、5月6日に行われたナショナルバイオリソースプロジェクト酵母シンポジウムと下田親先生退職記念パーティーのレポートを頂きました(2006.6.14)。

--

文部科学省「ナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP)「酵母」」のシンポジウム「酵母のポストゲノム研究とバイオリソース」が5月6日、ホテルグランヴィア大阪で行われました。ゴールデンウィークの最後の土曜日でしたが、200名近くの方がご参加くださいました。

東大・院新領域の大矢禎一先生は「フェノームから見た酵母の遺伝子機能 - 大規模細胞形態解析の結果から」というタイトルで酵母の形態に基づいたデータベースの開発について、苦労話も含めて大変興味深いお話をいただきました。システムバイオロジー研究機構 (JST北野共生システムプロジェクト)守屋央朗先生は「出芽酵母の細胞分裂周期のシステムバイオロジー」というタイトルで細胞周期のさまざまなタンパク質の活性および細胞周期変異株での細胞の状態をコンピューターソフトでシミュレーションしていくという究極のポストゲノム研究への取り組みについてのお話をいただきました。理研・中央研究所の吉田 稔先生は「分裂酵母のリバースプロテオミクスとケミカルゲノミクス」というタイトルで、分裂酵母の全てのタンパク質を標識し、その局在や変動を包括的に解析するというアプローチとそれを化学遺伝学に応用するという大変興味深い独創的な内容を紹介されました。京大・院生命科学、沖縄科学技術整備機構の柳田充弘先生は「なぜ酵母研究はこんなに役にたったのか」というタイトルで、温度感受性突然変異株から出発し、酵母独自の遺伝学的な解析を組み合わせることにより遺伝子間相互作用を見事に図式化できることを示したいいわゆる「曼荼羅プロジェクト」を、沖縄で進行中の「GOプロジェクト」と共に紹介され、聴衆に感銘を与えられました。



最後はNBRP「酵母」代表の下田 親先生が「酵母バイオリソース整備の現状と展望」という内容でこれまでのNBRPの歩みと今後の展望についてお話をされました。このプロジェクトの重要性が参加者にも共有され、今後の発展への期待が何人かの方からコメントされました。

シンポジウムに引き続き、下田 親教授の退職記念祝賀会が同ホテルで行われました。下田研関係者と酵母研究の関係者を中心に150名の方が参加され、終始なごやかな雰囲気の中で行われました。下田先生の恩師である大阪市立大学名誉教授の増田芳雄先生をはじめ、柳田充弘先生、山本正幸先生、もと大阪市大教員で進化学者の古澤 満先生、大隅正子先生からご祝辞をいただきました。下田先生の友人と下田研の卒業生の方から、下田先生についてのさまざまなお話をパワーポイントを交えて大変楽しく紹介していただきました。また、退職を記念して下田先生がご趣味とされているフルーツを贈呈しました。

